

令和4年度 第3回 全国健康保険協会北海道支部評議会開催結果（概要）

令和5年1月16日（月）全国健康保険協会北海道支部（THE PEAK SAPPORO 4階 会議室A）において、9名中9名の評議員の出席をいただき、令和4年度第3回全国健康保険協会北海道支部評議会を開催いたしました。その概要につきましては、以下のとおりです。

1. 日 時 令和5年1月16日（月） 14：00～16：00
2. 場 所 全国健康保険協会北海道支部
（THE PEAK SAPPORO 4階 会議室A）
3. 出席評議員 石井評議員、海野評議員、尾池評議員、小倉評議員、
片桐評議員、武山評議員、寺田評議員、牧野評議員、
吉田評議員（五十音順）
4. 議 事
 - （1）令和5年度北海道支部保険料率について
企画総務部長より資料に基づき説明後、議事に対する意見があった。
 - （2）令和4年度北海道支部事業計画の上期実施状況について
 - （3）令和5年度北海道支部事業計画（案）及び支部保険者機能強化予算（案）について
企画グループ長より資料に基づき説明後、議事に対する意見があった。
5. 議事に対する評議員からの主なご意見・ご発言
以下のとおり。

議題1：令和5年度北海道支部保険料率について

各都道府県で保険料率の格差が拡大している。医療提供体制など加入者の責によらない部分が大きいなか、事業所所在地によって保険料率が決定され、可処分所得が変動し

てしまう状況は労働者にとって許容できる範囲にあるだろうか。保険料率格差の縮小に取り組む必要がある。また、国庫補助率の引き上げの働きかけを行ってほしい。加えて、平均保険料率10%を維持する取組を続け、加入者への周知啓発をお願いしたい。（被保険者代表）

議題2：令和4年度北海道支部事業計画の上期実施状況について

議題3：令和5年度北海道支部事業計画（案）及び支部保険者機能強化予算（案）について

令和5年度医療費適正化・広報予算（案）で、若年層を対象としたSNSを活用した加入者（個人層）への広報と、事業所を対象とした新聞広告などを活用した広報では予算額が倍近く異なるが、なぜ若年層に対する広報強化が必要と考えるか。（事業主代表）

➤若いうちから健康づくりに関する意識を高め、将来的にヘルスリテラシーを向上させてもらいたく、若年層に利用者が多いSNSでの広報を行っている。若年層が自身の健康を考える機会の提供に力を入れるための予算配分である。（事務局）

若年層の健康意識向上の広報は長期的な啓発効果として意味があるのではないか。結果を検証し、今後の議論に繋げていただきたい。（学識経験者）

若年層のヘルスリテラシーの向上について、未成年の学生に対しても健康教育を行ってはいかがか。（学識経験者）

➤教育現場でも若年層のヘルスリテラシー向上の機会と捉え、未成年のような若年層への対策を来年度以降も考えていきたい。（事務局）

令和5年度の被保険者・被扶養者の特定保健指導の実施率のKPI値が令和4年度と比較しなぜ高くなっているのか、今後の見通しは。（被保険者代表）

➤KPI値が高いのは、国の目標値達成を前提として機械的に設定されるため。実施率向上の取組は進めており、健診受診率の伸びに伴い対象者が増加するなかで指導の実施数を増やしている。（事務局）

指導の目標値を満たすために対策を強化し議論すべき。（学識経験者）

喫煙対策の重要なターゲットは中高年の常習喫煙者であり、喫煙対策においては若年層と中高年の両輪で取り組む必要がある。（学識経験者）

➤おっしゃる通り。未だ北海道には喫煙可能な環境、文化があり、高齢の喫煙者を禁煙させるのは難しい。事業主から喫煙者個人へ呼びかけするといった取組も考えている。（事務局）

保険者努力重点支援プロジェクトについて、3支部の各地域の医療提供体制に格差があるなかで今後どのように進めていくのか。(被保険者代表)

➤ 3支部の環境が異なるのは事実。現段階で伝達できるものはないが、進展は逐一報告する。(事務局)

新型コロナウイルスの影響を受け、受診行動も変わったはず。保険者として各種データを活用し、医療費の流れや受診行動の変化などを検討し議論する必要があるのでは。(学識経験者)

以上